

公的医療機関等2025プランについて（地域医療構想関係部分抜粋）

| 独立行政法人国立病院機構東名古屋病院 |
|---|
| <p>【地域において今後担うべき役割】（P5）</p> <ol style="list-style-type: none"> 愛知県難病医療協力病院として神経難病専門医療機関の役割を担うとともに、愛知県難病診療分野別拠点病院に指定されることを目指す。地域における神経難病患者のレスパイト入院を担っていく。 2016年4月に開設した呼吸器感染症センターにおいて、抗酸菌症・真菌症・ウイルス感染症に対する地域医療を担っていく。 愛知県下の重症心身障害児（者）の受け入れ、特に重症者の受入を積極的に担っていく。 高度急性期病院や急性期病院から回復期リハビリテーション病棟におけるリハビリ診療を積極的に担っていく。 高度急性期病院や急性期病院から在宅復帰を図る患者の受入、地域福祉施設から救急要請患者の受入を行い、地域包括ケアシステムを実践する医療を担っていく。 愛知県結核最終拠点病院、多剤耐性結核（難治性の結核）専門医療機関、愛知県エイズ治療拠点病院として役割を担っていく。 名古屋市名東区における唯一の名古屋市第二次救急医療輪番制病院として、また地域医師会から要望がある救急医療を担っていく。 名古屋市から名東区における災害医療活動拠点（災害協力病院）の指定を受けたことに対応し、災害時における医療救護所からの患者受入の体制を整える。 |
| <p>【今後持つべき病床機能】（P5）</p> <ol style="list-style-type: none"> 高度急性期病院や急性期病院から在宅復帰を図る患者の受入、地域福祉施設から救急要請患者の受入をよりスムーズに行うため、地域包括ケアシステムの中心となる地域包括ケア病棟を持つ。 障害病棟の在院日数短縮、重症者の割合増加に伴う看護必要度アップに対応するため、障害病棟の看護体制を7対1とする。 |

| 【今後の方針】（P6） | | | |
|--|----------------------|---|----------------|
| | 現在 (平成28年度病床機能報告) | | 将来 (2025年度) |
| 高度急性期 | 0 | → | 0 |
| 急性期 | 93 | | 80 |
| 回復期 | 60 | | 100 |
| 慢性期 | 202 | | 150 |
| (合計) | 355 | | 330 |
| <p>【その他の数値目標】（P7）</p> <p>医療提供に関する項目</p> <ul style="list-style-type: none"> 病床稼働率：94.3% 手術室稼働率：486件 紹介率：82.0% 逆紹介率：42.0% <p>経営に関する項目</p> <ul style="list-style-type: none"> 人件費率：65.0% 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：0.01% <p>※本部で負担している研究研修費は含まない</p> | | | |